

市立札幌開成中等教育学校 学校目標の「多様性の涵養」を目指す評価ツール（北海道）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約960名
(うちSGH対象生徒数 1学年40名程度)
- SGH対象学科：
コズモサイエンス科を中心とする
- HP：<https://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>
(H30年度以前の取組は上記HPのうち「SGH」タブをクリック)
SGH委託費用総額：39,862,830 円
(H26：約1320万円、H27以降540-800万円/年で推移)
- 校内の体制：校内SGH委員会、SGH主任の設置、
全教員がSGHかSSH、国際バカロレア（IB）のいずれか
希望するものを担当するボトムアップによる全員参加
- 国内連携機関：
北海道大学、伊万里市民図書館、北海道ガス等の
SGH探究パートナーと連携
- 連絡先
yasuyuki-koizumi@sapporo-c.ed.jp
011-788-6987（代表）

何をを目指したか

- 「課題探究は楽しい」と感じる授業づくりを通じ、
多様性を絶対的価値とした人材育成

ツールのポイント

- 1 SGH指定年度に開設された学校目標と整合の取れた目標設定と評価
- 2 3つの目標を20の評価指標に具現化
- 3 日常の活動はポートフォリオ、文章評価し、年度の最終段階に総括評価

SGH事業実施に
必要だった資源

人員



金銭



時間



心理

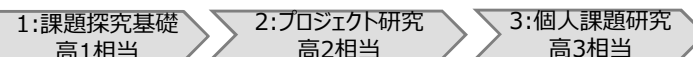
- 札幌市からの英語教育を担当する外国人常勤講師（GEA global English assistant）追加派遣（11名）
- SGH以外の費用で内部の指導人員体制を構築し、SGH予算により国内外のフィールドワークや探究パートナー（外部講師）と積極的に交流（※SSH指定もあり）
- 全員参加によりなるべく負担の分散を図るが、探究パートナーの増大とともに、土日などの課外での負担が大きい
- 教員自己評価の「変化の実感」は99%が変化の実感を持つが、多忙ゆえにSSHとの連携や学校目標にもある「余裕」が減っていった

Plan

ツール作成の背景

- H26年度に開成高校から、開成中等教育学校に再編し、札幌市で特色のある学校として活動するという使命
- 学校教育目標「わたし、アナタ、min-na そのすがたがうれしい」をベースに、多様性を絶対的価値とした人材育成を目指す
- SGHの目標には、①自ら課題を発見し、生涯にわたって学び続ける力、②自己を肯定し、多様な価値観を認め合う心の余裕、③未知なるものに挑戦し、自ら道を切り開く勇気の3つの力を設定

SGH事業計画の流れ



Do

ツールの解説

✓ 20の評価指標

取組概要

- 未知なるものへの興味（好奇心）や多様な価値観を認めあう姿勢、夢はかなうと思う気持ちなど20の項目で、生徒に自己評価をさせるもの
- 毎年同じ項目で質問をセットし、向上したかどうか自己評価させる

成果

- H27年度入学の生徒の伸びが高く、新規開発された社会科学特論（高大接続）等の授業の成果と評価でき、プログラムの改善に寄与

✓ チームビルディングを目指し、対話力（ダイアログ）を育てる授業

取組概要

- 日常の授業の中でも高1相当の生徒に「話し合いのガイドライン」という憲章を作らせているが、ツールでは、サマーキャンプでの活動の様子を掲載
- サマーキャンプでは、国際問題をテーマに意見だしゲームを行っており、3日間の中でプログラムの最初と最後に同じテーマで実施
- 対話の約束の1つとして、「意見に正しい間違いない、自分の意見は自分だけのもの」を掲げる

Check

取組内容の評価

- 当初のゴールに据えていた課題探究を楽しんでいるか、について卒業時あるいは指定終了時には、大変向上、やや向上と回答するものが約8割
- 課題探究は進路探究にもつながるという考えのもと、進路選択においても、課題探究で得たテーマや研究者のもとに進学を決める生徒も生まれ、学校として課題探究を踏まえた進路指導を実践

Action

指定期間終了後のいま

- SGHの取組は生徒、保護者ともに評価が高くほぼ継続しているが、海外研修については教員旅費等の捻出が難しく、修学旅行として姉妹校提携をした学校等と探究の海外フィールドワークを実施
- 今後はIBの本格化を通じ、探究を進めていくが、特に中等教育学校として、中学1年～3年相当との異学年交流、異学年ゼミなどを行うことを検討中